

## 海外渡航報告書

大阪大学大学院工学研究科

附属アトミックデザイン研究センター(兼 応用化学専攻)

助教 小西 彬仁

参加会議：International Congress on Pure & Applied Chemistry Langkawi (ICPAC Langkawi 2018)

開催場所：マレーシア、ランカウイ島、ベイビューホテル

開催期間：2018年10月30日～11月2日

発表題目：Synthesis and Characterization of a Polycyclic  $\pi$ -Conjugated System Incorporating an Azulene Unit

大阪大学工業会から助成を受け、マレーシア・ランカウイ島にて開催されたICPAC Langkawi 2018に参加しました。本会議は、マレーシア化学会 (Institut Kimia Malaysia) と日本の Asia Chem Corporationが共同で開催し、アジア、オセアニア、南太平洋地域の化学の発展をめざした国際学会です。有機化学、物理化学、無機化学、高分子化学と幅広い分野から研究者が集い、5つの発表会場にて活発な発表および意見交換が行われました。

私は、招待講演者の一員として、銀イオンを用いたアズレン骨格の構築について発表を行いました。アズレンは5員環と7員環で構築される共役系化合物で、天然にも存在する有用な有機化合物です。しかし、その特殊な構造のため自在な合成が難しく、 $\pi$  拡張や官能化が大きな課題となっていました。私は、合成容易な基質に銀イオンを作用させることで、一段階で $\pi$  拡張アズレン環を構築できることを見出し、その詳細と合成した化合物の性質について発表しました。内外の研究者から多数の質問を受けると

ともに、セッション終了後にも数名の研究者に声をかけて頂き、大変有意義な意見交換を行うことができました。本会議で得た知見とアイデアを今後の研究にフィードバックし、さらに研究の質を向上させていきたいと強く感じました。

ところで、化学に関する議論もさることながら、大変うれしい出来事がありました。我々の研究室に4年前に短期滞在していたマレーシアの学生(当時)と、本会議で偶然にも再会しました。帰国後、Ph.Dを取得し、研究を引き続き遂行しているとのことで、大変頼もしく感じました。会議終了後、近くの繁華街にて、思い出や近況に話に花を咲かせたことは、本会議に参加したことの何よりの収穫であったように思います。留学生の教育研究指導の重要性が年々増していますが、日本で得た知識と体験を自国へ還元している姿を直に見ることができ、その意義を再確認できたように感じます。

最後になりますが、本渡航を支援して頂きました大阪大学工業会に深く感謝いたします。ありがとうございました。



(左)筆者の発表 (右)思いがけない再会(左から筆者、元留学生、当研究室学生の南君D2)